

第4章 建築物の地震に対する安全性の向上に関する啓発及び知識の普及に関する事項

1 地震防災関連情報の公表

建築物の所有者等の意識啓発を図るため、発生のおそれがある地震の概要と地震による危険性の程度等について、市街地の状況や地形・地盤の状況を踏まえて作成した地震防災マップを公開する等、わかりやすい地震防災に関する情報をホームページ、広報等を通じて公表し、市民への周知に努める。

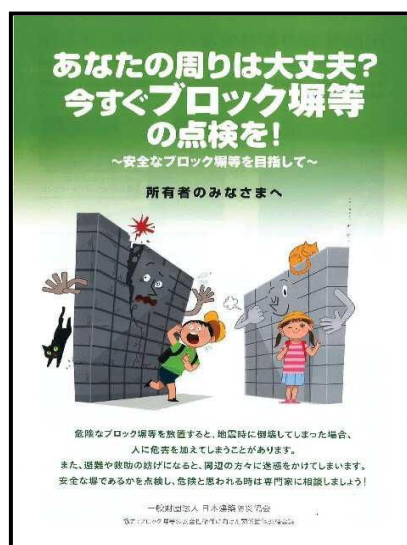
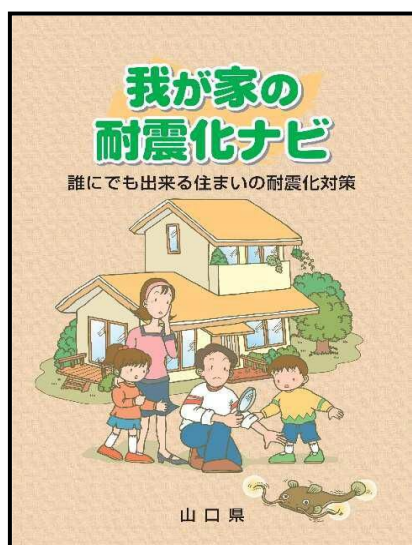
2 相談体制の整備及び情報提供の充実

所有者等からの相談体制の整備として相談窓口を設置するとともに、耐震に関する知識や助成制度についてホームページ、広報等を通して情報提供を行う。

また、国、県及び関係団体が作成したパンフレット等を活用し、市民への情報提供を行うとともに、住宅月間や建築防災週間等の機会にあわせて集中的な広報活動を実施することで、耐震化の普及啓発を行う。

3 啓発用リーフレットや耐震改修事例集の活用

地震による被害の重大性や耐震診断を行うための問診票、安心できる住まい方の提案等を掲載したリーフレットや、効率的な耐震改修の提案として、リフォームにあわせた住宅耐震改修法を紹介する事例集を、相談窓口を設置するとともに、ホームページ等で紹介する。



4 リフォームにあわせた耐震改修の誘導

耐震改修は、設備の更新やバリアフリー化等、住宅のリフォームの際にあわせて行うことで、手間や費用面でメリットがあり、住まいを快適にするだけでなく、丈夫で安全な住まいとすることができる。このため、リフォームとあわせて耐震改修が行われるよう、ホームページ等を活用して、リフォームと耐震改修を一体的に行った場合のメリットや、その手法に関する情報提供を行う。

5 自主防災組織・自治会等との連携

地震対策の基本は、「自らの命は自ら守る」であるとともに、「自らの地域はみなで守る」ことであるので、自主防災組織・自治会等单位で地震についての対策を講じることが重要である。

また、地域における住民間の連携や、日ごろからの地震に対する意識などの備えのためには、市が地域の自治会等と連携しての対策が必要である。

自治会との連携活動としては、地震時の危険箇所の点検等を通じて、地震による防災対策の啓発及び普及を行い、また、地域全体での耐震化の促進や危険なブロック塀の改修及び撤去並びに家具の転倒防止等の取り組みを行う。

市は、これらの活動への技術者の派遣等必要に応じて県に支援を求める。